

■平成21年度広瀬川創生プラン重点事業評価シート

【仙台市による自己評価】

事業名	「広瀬川で遊ぼう」の開催		
事業概要	広瀬川の新たな魅力の創出を図るため、5月5日のこどもの日を中心に世代を超えて多くの市民が広瀬川に親しめるイベントを広瀬川宮沢緑地で開催する。		
事業目標	平成21年5月3～5日の3日間に開催し、参加市民数1日平均800名(好天時)以上を目指す。		
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・天候に恵まれ、過去最多の参加者数となり(3日1,500人、4日1,400人、5日1,800人、計4,700人、1日平均約1,570人)、目標を達成した。 ・地元商店の出店が増え、また実行委員会への参加団体が増加した。 		
実施段階	評価項目	評価	取組み状況
事業前	役割分担の明確化	4	・ホームページや地元ラジオ放送等を使った紹介・マスコミへの情報提供など広報を行った結果、新聞やテレビニュース番組で取り上げられるなどの効果があった。
	事業計画の作成	4	・事前にタイムテーブル・役割分担表・交通誘導計画などを作成した結果、大きな混乱もなくスムーズな運営ができた。
	予算の確保	3	・前年度並みの負担金予算は確保できなかったため、チラシ作成・印刷や開催のPRなどの協力を行った。
	課題の抽出	4	・昨年実施後の課題となっていた雨天時の問合せ対応やベビールーム設置については、実行委員会の中で検討を行って対応することとした。
	対応策の検討	4	・上記課題について事務局の市民会議と検討を行った。
事業後	目標の達成	5	・来場者数が延べ4,700人(3日約1,500人、4日約1,400人、5日約1,800人)前年より約1,700人増となり、目標を達成した。
	事業の評価	4	・このイベントが地域に定着し、広瀬川に親しむ機会として多くの市民から楽しみにされていることがアンケートからもうかがえる。
	情報の共有	4	・今年で4回目ということもあり、市民会議や参加企業・団体との情報共有化は円滑にできている。
	課題の対応	4	・幸い天候に恵まれたため、雨天時の問合せ対応は不要となったが、イベントへの問合せが増加してきており、今後対応方法を検討する必要がある。
	対応策の検討	3	・今回は十分検討できなかったが、予算確保できなかった場合に、イベント規模を縮小しないで対処する方法を今後検討する必要がある。
合計		39	

よくできた	5	想定以上の効果があった
できた	4	ほとんどの項目が達成された
どちらともいえない	3	できたもの、できなかったものがある状況
あまりできなかった	2	できなかったものが多い
できなかった	1	ほとんどの項目ができなかった

【広瀬川市民会議による自己評価】

事業名	「広瀬川で遊ぼう」の開催		
事業概要	広瀬川の新たな魅力の創出を図るため、5月5日のこどもの日を中心に世代を超えて多くの市民が広瀬川に親しめるイベントを広瀬川宮沢緑地で開催する。		
事業目標	平成21年5月3～5日の3日間に開催し、参加市民数1日平均800名(好天時)以上を目指す。		
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・5年間継続して開催することにより、地元商店会・町内会の理解と協力が促進し、このイベントが着実に地域に定着してきている。 ・市民の広瀬川に対する関心を持続的に高めるためには、イベントの内容をさらに検討する必要がある。 		
実施段階	評価項目	評価	取組み状況
事業前	役割分担の明確化	4	実行委員会への参加団体は年々増加しているが、運営の主体となっているのは市民会議のみのため、参加団体の連携を強化し、より多くの団体が主体的に関与するよう働き掛けを行う必要がある。
	事業計画の作成	5	作成した事業計画は迅速に参加団体に示して実施している。常連の参加団体が多く、円滑にイベント内容を周知できている。
	予算の確保	5	出店料、企業からの協賛金増額により、昨年度並の予算確保ができた。
	課題の抽出	5	前年度に参加者からのベビールームを要望する意見があったので、実行委員会で話し合い、ベビールーム設置の検討を行った。
	対応策の検討	4	ベビールーム設置のため、地元からキャンピングカーを借用することとして対応した。
事業後	目標の達成	5	イベントが定着し、参加者数が延べ4,700人(3日約1,500人、4日約1,400人、5日約1,800人、1日平均約1,570人)となり、来場目標者数を大きく上回った。
	事業の評価	4	乗馬やボート遊びなど広瀬川に親しむ機会を提供し、開催に合わせて帰仙する家族が増え、市民の思い出づくりに役立っていることを感じる。
	情報の共有	4	定期的に開催した実行委員会総会や、市民会議事務局会義などできめ細かい話し合いを行い情報共有化を図った。
	課題の対応	4	ベビールーム設置は大変好評だった。また、例年課題となっている会場への交通整理も円滑に行われた。
	対応策の検討	4	来年度実施に向け、今年復活した貸しボート事業への配慮や、予算的制約から人気の乗馬体験実施の可否など、イベント内容を再検討する必要がある。
合計		44	

よくできた	5	想定以上の効果があった
できた	4	ほとんどの項目が達成された
どちらともいえない	3	できたもの、できなかったものがある状況
あまりできなかった	2	できなかったものが多い
できなかった	1	ほとんどの項目ができなかった

■平成21年度広瀬川創生プラン重点事業評価シート
【仙台市による自己評価】

事業名	「広瀬川1万人プロジェクト」の開催		
事業概要	100万都市・仙台市人口の1%の1万人をキーワードとした広瀬川流域の一斉清掃及び啓発事業(シンポジウムなど)等を実施する。		
事業目標	4月25日(土)と9月26日(土)に清掃活動を行い、前年度を上回る参加者を目指す。(平成20年度参加者:4月350名,9月987名)		
事業実績	4月25日(土)は雨天のため作並会場のみ清掃活動を実施し、85名が参加した。また、澱橋会場では6月6日(土)に順延して除草と清掃活動を実施し、67名が参加した。9月26日(土)には流域13会場で実施し、参加者数が1,423名と昨年を大きく上回った。また、企業・団体からの協賛金も昨年実績を大きく上回り、清掃活動に関してはこれまでで最も充実した内容となった。		
実施段階	評価項目	評価	取組み状況
事業前	役割分担の明確化	4	・今年度から事務局となった市民会議と協働し、作業を分担して進めることができた。
	事業計画の作成	4	・ごみ回収計画や緊急連絡網などを作成し、スムーズな運営ができた。
	予算の確保	2	・予算は確保できなかったが、ごみを回収するごみ袋の提供や、火バサミ貸与などを行った。
	課題の抽出	4	・参加企業・団体から、CSR活動参加証明書の要望が増えたため、対応方法を検討した。また、清掃活動以外の取組みについては、「広瀬川サミットIN東北」とタイアップして行うこととした。
	対応策の検討	4	・ホームページによる広報や国・県の行政機関と連携して周知を図るなどにより対応することとした。
事業後	目標の達成	5	・春の一斉清掃は雨天のため当初予定していた4会場のうち3会場で中止となったため、前年度実績と単純比較はできないが、秋の一斉清掃では参加者数が昨年を大きく上回った。
	事業の評価	5	・実行委員会に主体的に関与する企業・団体が増え、協働が促進した。
	情報の共有	5	・メーリングリストなどを通じて実行委員会に参加する企業・団体と随時連絡を取り合い、スムーズな実施につなげることができた。また、この活動以外の広瀬川に関する情報のやり取りもできた。
	課題の対応	4	・CSR活動参加証明書の発行については、初めての取組みだったため、とりまとめ作業などに苦労した。今後作業の効率化を図る必要がある。
	対応策の検討	4	・清掃活動に関しては、運営方法が確立しつつあるが、さらに広く市民に広瀬川に関心を持ってもらうために清掃以外の活動に関して、今後取組みを強化していく必要がある。
合計		41	

よくできた	5	想定以上の効果があった
できた	4	ほとんどの項目が達成された
どちらともいえない	3	できたもの、できなかったものがある状況
あまりできなかった	2	できなかったものが多い
できなかった	1	ほとんどの項目ができなかった

【広瀬川市民会議による自己評価】

事業名	「広瀬川1万人プロジェクト」の開催		
事業概要	100万都市・仙台市人口の1%の1万人をキーワードとした広瀬川流域の一斉清掃及び啓発事業(シンポジウムなど)等を実施する。		
事業目標	4月25日(土)と9月26日(土)に清掃活動を行い、前年度を上回る参加者を目指す。(平成20年度参加者:4月350名,9月987名)		
事業実績	4月25日(土)は雨天のため作並会場のみ清掃活動を実施し、85名が参加した。また、澱橋会場では6月6日(土)に順延して除草と清掃活動を実施し、67名が参加した。9月26日(土)には流域13会場で実施し、1,423名と昨年を大きく上回る参加となった。これは、今年度から実行委員会事務局を市民会議が担当することとなり、運営体制を強化したり、ホームページを開設した結果だと思う。		
実施段階	評価項目	評価	取組み状況
事業前	役割分担の明確化	5	ワーキンググループをつくり、事務局の業務を役割分担して遂行することで、円滑な運営を図ることができた。
	事業計画の作成	5	流域一斉清掃を実施する会場は、各会場の事情に精通した個人や団体が責任者となり、スムーズな活動が実施できるよう計画を立てて実施に臨むことができた。
	予算の確保	5	企業・団体からの協賛金が昨年より約4割増となり、また財団法人リバーフロント整備センターに助成申請をして採択された。
	課題の抽出	5	企業・団体からの参加方法などの問合せが増えたため、効果的な周知方法を検討し、ホームページを開設し、積極的に企画内容や参加方法の周知を図ることとした。
	対応策の検討	4	課題のひとつとなっている清掃以外の活動の展開については、今年度「広瀬川サミットIN東北」事業に協賛することとして取り組むこととした。
事業後	目標の達成	5	9月の清掃時には、ホームページ開設による周知などにより、清掃活動への参加者数は、昨年実績を大きく上回り、活動の定着が伺える。
	事業の評価	4	企業の社会貢献活動の気運が盛り上がってきており、その影響もあって実行委員会へ参加する企業が増え、あわせて協賛金提供の協力も得られるなど、この活動が市民だけでなく企業からのニーズにも応えられている。
	情報の共有	5	ホームページの開設、リーフレットの作成・配布により事業の普及に努めた。
	課題の対応	4	「広瀬川サミットIN東北」の成功など、清掃以外の活動についても少しずつ取組みができてきているが、今後はさらに環境問題などをテーマとして、他の団体と連携した活動を推進する必要がある。
	対応策の検討	4	今後の活動については、これ以上参加者が増大すると、会場によっては駐車場の確保や、ごみが少なく参加者の達成感が得られないなどという問題がある。今後環境問題をテーマとした交流会などと組合わせて実施する必要がある。しかし清掃以外の活動を行う場合、それを支援するための事務局体制確立が必要である。
合計		46	

よくできた	5	想定以上の効果があった
できた	4	ほとんどの項目が達成された
どちらともいえない	3	できたもの、できなかったものがある状況
あまりできなかった	2	できなかったものが多い
できなかった	1	ほとんどの項目ができなかった

■平成21年度広瀬川創生プラン重点事業評価シート

【仙台市による自己評価】

※仙台市のみ評価項目

事業名	広瀬川ホームページの充実		
事業概要	広瀬川に関する市民活動百科事典として活用されるよう、広瀬川ホームページの充実を図る。また、広瀬川を観光スポットとして活用するため、「広瀬川マップ」の充実を図る。		
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1日あたりのアクセス数(visit=閲覧者)が前年以上となることを目指す。(平成20年度実績 183.9件) ・活用しやすい内容の充実を図るとともに、認知度を上げ、広瀬川に関する市民活動百科事典として活用されることを目指す。 		
事業実績	・1日あたりのアクセス数が232.2件(21年12月末時点)と目標を達成した。		
実施段階	評価項目	評価	取組み状況
事業前	役割分担の明確化	4	・関連事業に関する情報を積極的に提供・公開するとともに、市民の積極的活用を促すための内容を検討した。
	事業計画の作成	4	・年度当初に計画を立て、そのスケジュールに沿って作業を進めている。
	予算の確保	3	・前年度と同等の予算は確保できなかったため、限りある予算内でアクセス増加と市民利用度増加を目指した。
	課題の抽出	4	・広瀬川を知ってもらうという点では、アクセス数の増加から効果が上がっていると思うが、実際に広瀬川に来てもらうための取組みが必要である。
	対応策の検討	4	・実際に広瀬川へ足を運んでももらうため、昨年度のディスプレイキャンペーンで好評だった広瀬川散策マップをまとめて掲載するとともに、携帯用マップをセットで増刷を行うこととした。
事業後	目標の達成	5	・1日あたりのアクセス数(visit=閲覧者)が232.2件(21年12月末時点)と目標を達成した。(昨年度183.9件)
	事業の評価	4	・アクセス増加に関しては目標を達成できたが、市民の積極的利用に関しては課題が残っている。
	情報の共有	4	・会報を掲載するなど、市民会議と情報を共有できた。
	課題の対応	4	・携帯用マップは、メディアから引き合いもあり、様々な活用がなされて広瀬川に実際に足を運んでももらう上で機能していると思われる。
	対応策の検討	3	・今後は市民の自発的・積極的利用を促進することが課題である。
合計		39	

よくできた	5	想定以上の効果があった
できた	4	ほとんどの項目が達成された
どちらともいえない	3	できたもの、できなかったものがある状況
あまりできなかった	2	できなかったものが多い
できなかった	1	ほとんどの項目ができなかった

【広瀬川市民会議による自己評価】

※広瀬川市民会議のみ評価項目

事業名	企業との協働事業の促進		
事業概要	広瀬川市民会議を中心としたNPOや市民活動団体、広瀬川に関連する企業との協働事業の実施を促進する。		
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・広瀬川市民会議が関わる年間の協働事業実施数が5件以上を目指す。 ・また、参加する企業・団体の実数が30社以上を目指す。 ・協働事業の推進にあたっては、事業の継続性と地域貢献に配慮するとともに、広瀬川市民協働基金設立への機運を高める。 		
事業実績	「広瀬川で遊ぼう」「広瀬川クリーンキャンペーン」「作並かっぱ祭り」「広瀬川1万人プロジェクト」「広瀬川サミットIN東北」純米吟醸酒「清流広瀬川」の6事業を実施し、協働企業数は49企業・20団体と目標を達成した。市民会議の事業評価とあわせて企業・団体からの企画提案、協力の申し出などが増えてきている。		
実施段階	評価項目	評価	取組み状況
事業前	役割分担の明確化	4	各事業ごとに担当者を決め、助成金申請及び協賛金提供の協力を要請するなどして取組みを行った。
	事業計画の作成	4	事業計画を作成して取組みを行っているものの、計画した予算は確実に確保できるわけではないので、事業遂行する上で常に困難さがつきまとう。
	予算の確保	3	「広瀬川で遊ぼう」以外の事業は、ゼロベース予算での取組みのため、常に資金確保に苦労している。
	課題の抽出	4	協働事業をさらに推進する上で、市民会議の組織強化と運営資金の確保が重要課題である。
	対応策の検討	2	広瀬川への思いの強さ、夢づくりのみで5年間活動を行ってきた市民会議への評価も少しずつ高まっているが、資金確保が最大の課題である。
事業後	目標の達成	4	協働事業実績については、目標を達成できた。それぞれの個別事業についても、企業・団体と協働して実施できた。
	事業の評価	4	事業を継続的に実施していることが、企業・団体から高い評価につながっていると思われる。今後さらなる協力関係が期待される。
	情報の共有	3	市民会議ニュース(会報)を定期的に発行し、協力企業・団体に発送するなどして情報共有化を図っている。
	課題の対応	3	運営資金の確保については、着実に事業実施して信頼性を高めて対応しており、今後は広瀬川への市民ニーズを探りながら、さらに検討する必要がある。
	対応策の検討	3	協働事業をさらに推進する上で、市民会議の組織強化と運営資金の確保が重要課題であり、今後とも信頼性を高め着実な取組みを進める必要がある。
合計		34	

よくできた	5	想定以上の効果があった
できた	4	ほとんどの項目が達成された
どちらともいえない	3	できたもの、できなかったものがある状況
あまりできなかった	2	できなかったものが多い
できなかった	1	ほとんどの項目ができなかった